

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0972100457		
法人名	社会福祉法人 幸知会		
事業所名	グループホーム へブンリートータス		
所在地	栃木県河内郡上三川町下神主231-1		
自己評価作成日	平成22年7月10日	評価結果市町村受理日	平成22年9月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do">http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成22年7月22日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節に合わせた行事の充実、利用者との一対一の誕生日外出、年に2回、家族との交流の場を設けたりし、楽しんで頂いている。また、利用者のちょっとした要望にも可能な限り、実現できるように職員各々が情報を共有し、取り組んでいる。ホームページにてために更新することで、家族の方もタイムリーにホームの様子が分かる。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは併設する特別養護老人ホームと敷地続きにあり、手入れの行き届いた庭園がある「桜」と「椿」の2ユニットからなるホームである。長い間慣れ親しんだ生活を変えることなくをモットーにしており、共有空間や居室周辺に木材をふんだんに使い、落ちついた安らぎある空間がつけられている。また、理念として「今を輝く・楽しくらし」を基に職員が日々支援に取り組んでおり、入居者が普段出掛けられない所等への外出支援として1泊旅行の企画をしたり、誕生会として入居者から希望を募り、好みの場所での食事会等を実施している。管理者は職員との年2回の面談や定例会、法人全体職員会議等の場で職員との意見交換等を活発に行い、入居者への支援向上に向けて取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「今を輝く」との理念を事務所に掲げ、常に意識し日々の業務に当たっている	「楽しい暮らし」と「今を輝く」を理念の基としており、入居者への支援も理念を念頭に馴染みの職員が寄り添いながらサービス提供を実践している。また、会議や申し送り等においても職員間での情報共有に努めながら、入居者の有する能力に応じた実践にも取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	日常の散歩中等に近所の方々とあいさつを交わしたり、同法人での納涼祭で地域の方々との交流を図っている	同法人の納涼祭にて地域住民との交流を行っている他、散歩中に近所の方々と挨拶を行う等、地域との交流に取り組んでいる。ボランティアの受け入れや、隣接しているディサービスの利用者が訪ねてくることもある。	入居者が地域の中で暮らし続ける為の基盤づくりとして、自治会への加入や気軽にホームに訪問してもらえる様に地域住民等を対象とした認知症の理解促進のための講習会等の開催を積極的に担って行く事に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで、日頃のホームの様子を報告することで、地域の方には認知症の方についてはご理解頂いている	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度(6回/年)運営推進会議を行い、ご家族や入居者から率直な意見を伺い、日々のケアに活かしている	運営推進会議は入居者、家族、町職員、地域住民代表等が参加し、2ヶ月に1度開催している。会議ではホームの利用状況や取り組み状況等の報告を行っている他、参加者からも意見や助言をもらい、それらを運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、事業所の近況を報告し問題等を相談したりしている	町担当職員とは運営推進会議等での意見交換や相談をしたりしており、情報の共有を図っている。管理者や主任等が窓口となり、町へ出向いて相談や助言をもらい、問題解決等においても町職員との関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人に身体拘束事故防止委員会があり、委員を通して身体拘束を常に意識し本人の意思を尊重し、自由に生活して頂けるよう見守りを行うケアに努めている	法人に身体拘束事故防止委員会があり、管理者及び職員は身体拘束の内容やその弊害を認識しており、身体拘束のないケアの実践に取り組んでいる。入居者一人ひとりの身体状況や混乱、不安等の要因等を家族とも相談しながら支援している。日中は、職員の見守りにより玄関への施錠はしていない。	

グループホームへブンリートータス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束事故防止委員にて高齢者虐待防止関連法について学び、虐待を行わない意識付けを発信している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な研修会には積極的に参加している 利用者1名が上三川町社協の成年後見人制度を利用している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	最初の契約時には時間を頂き内容の読み合わせを行い、不安な点や疑問点の解消を図っている。変更時等には文面・口頭両方で説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者・家族に参加して頂き、意見や要望を伺うようにしている。玄関に意見箱を置き自由に投書出来るよう配慮している	契約時に重要事項説明書にて苦情の受付方法や苦情受付担当職員、外部の苦情受付機関にも申出る事が出来る事を説明している。家族等からの意見や要望、不満等は運営推進会議や年2回実施している家族との交流会の場等で話し合い、入居者主体の運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度定例会議を開催している。またこれとは別に月に1度の法人全体の職員会議があり、いずれも運営者が出席している	毎日のミーティングや月1度の定例会議、法人全体の職員会議において職員からの意見や提案を確認しており、働き易い環境づくりの支援に取り組んでいる。また、職員は年2回、管理者等との面談や個人目標の設定を行う等、スキルアップの機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回上司との面接。まじめに働く人を正しく評価するシステム。個人の目標設定と自己評価、上司の評価を融合		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時に新人教育を受け、その後は主任、リーダーに付いて勉強していく。3か月はゆっくりと一人一人に合った教育に取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	老施協の中のグループホーム部会に入会したり、栃木県グループホーム協会に入会してその中でネットワーク作りをして意見を交換している。近隣グループホームと積極的に意見交換をしている		

グループホームへブリーチトータス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームをじっくりと見学して頂いた上で不安な点、困っている点等を親身になって聞く事で信頼関係を築いていけるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来るだけ家族の立場に立って話を伺う事で不安を少しだけでも和らげ、思いを理解するようにしている。また家族が話しやすい環境作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の現状を伺い、出来る限り希望に添えるよう努力している。グループホームより本人に適したサービスがある場合には他の相談者を紹介している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と家族同様の接し方をすることで、互いを理解し、楽しい時には一緒に笑い、苦しい時には共に支えあう関係が築けている		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所してからも家族との関係は大切にして頂きたいので、面会以外にも受診を家族に行って頂く事で、一緒に過ごせる機会を作っている。また、ホームの行事にも参加して頂き、喜怒哀楽を共感して頂いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者との会話の中で挙がった人については電話で話をしたり、遊びに来て頂いたり、関係が途切れる事のない様支援している	入居者の今迄の地域や住民との関係を継続出来るように、会話の中で名前が挙がった人等については、手紙を出したり、電話で話をしたり、遊びに来てもらう等の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の中で生活歴・性格等から人間関係がうまくいかずトラブルになる事も有るが、出来る限り皆で協力し合っ、お互いに思いやりを持った声掛け・関わり方が出来るよう努めている		

グループホームへブンリートータス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了の理由にもよるが長期の入院の方に対してはお見舞いに行ったり、在宅に戻られた方については家族に手紙を書いたり、電話で近況を伺ったりして関係を続けるようにしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家に居た時と同じ生活が出来る様本人に意向を聞き個々のペースで過ごして頂いている。困難場合は家族と相談し最良の生活を送って頂けるよう努めている	日々の関わり合いの中から、本人の言動や表情を通して思いや意向の把握に努めている。また、家族から今迄の生活歴等の情報も参考にしながら精神面も含めてケース記録に記入しており、本人本位の検討に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からの情報を基に、これまでの生活歴(職業・趣味・昔の暮らしぶり)等把握し、サービスに役立てている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	昔どのように家で過ごしていたのか家族にアドバイスを頂き、生活の中で個々の能力が発揮でき、その人らしさが出せるよう支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望ややりがいのある事を第一に考え、その後家族にホームでの生活について理解頂き、相談しながら介護計画を作成し、状況に応じて計画の見直しを行っている	本人の意向や家族からのニーズやアイデアを反映しながら地域で暮らし続ける為の必要な支援方法を担当会議にて協議し、個別の具体的な介護計画を作成している。見直しは6ヶ月を目安に行っており、状態に変化が見られた場合は医師等とも相談しながら随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にその日の出来事や健康面(食事・排泄)や健康状態など記録し、勤務前に目を通し情報の共有をしている。気になった点等はミーティング等でその都度話し合いをし、介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特養やデイサービスが隣接している為協力・連携体制は取れている		

グループホームへブンリートータス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームで地域交流としてそば打ちや歌や踊りのボランティアや、趣味に合わせたサークル活動を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望している病院で受診して頂いている。主治医にホームでの状況を提供するなどして連携を図っている	入居者各々の希望するかかりつけ医に家族の付き添いでの受診をしている。受診結果は家族から適宜報告をもらい、入居者の健康状態や服薬類の把握に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の気になる方は朝・夕に看護職へ報告・相談し指示を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人の状態については病院側・家族側の両方から確認を行い退院に向けて病院と相談している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が元気なうちに本人の希望、または家族の希望に添えるよう職員間で意思の統一を図る。ハード面での限界がある事を伝え、本人が快適な生活が送れるよう取り組んでいる	入居者や家族の意向を確認しながら、ホームでの対応には限界があることも伝えている。また、入居者の終末期における生活が快適なものになるよう職員間で意思の統一を図り、情報の共有に努めている。	今後、馴染みの職員がいる、馴れ親しんだ当ホームでの看取りを希望とする入居者も出てくる事も考えられる事から、事業所での対応方針を明文化すると共に医療機関等との連携強化を図り、終末期の支援に取り組んでいく事に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、急変時、全職員が速やかに対応出来るよう看護職の協力のもと、日々訓練を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回以上防災委員会の協力のもと、あらゆる場合を想定し、避難訓練を行っている 地域の方への協力は特に要請していない	法人の防災委員会の協力の下、定期的に避難訓練を実施しており、夜間時を想定した訓練も実施している。また、併設されている特別養護老人ホームからの応援体制も構築されている他、今年度中にスプリンクラーの設置も予定しており入居者の安全・安心に努めている。	夜間時等、職員だけの避難誘導の限界を具体的に確認し、日頃より、地域住民や警察署、消防団等との協力体制の構築に努め、合同での訓練を実施する事に期待したい。

グループホームへブンリートータス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや対応等不快感を与えないように心掛けている 排泄や居室訪室時にはプライバシーの配慮に十分気を付けている	入居者には常に年長者としての敬意を払い、その人らしい尊厳を大切にしている。援助が必要な時も入居者の気持ちを大切に考え、目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮している。個人情報に関する書類等は事務室の書庫にて保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を大切に思いを上手く引き出せるような声掛けや雰囲気を作るようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	趣味・特技を活かして頂けるよう出来る限り普段の生活においては1人一人の時間を大切にしている 散歩や外出等でなるべく希望に添うよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室、または化粧等その人らしさ、こだわりを大切に支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のレベルに合わせ(調理・片付け等)それぞれが役割を持ち行っている メニューも入居者の希望に添うよう毎日その日に考えながら決めている	献立は入居者の希望等を考慮したものを作成しており、食材の買出しは職員と共に出かけている。また、入居者は食事の準備や後片付けも分担して行い、職員も一緒に同じ物を食べている。夕食のみ併設の特養から届けられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	オヤツ・食事中は常に水分・食事摂取量に目を配り普段より摂取量が少ない方に関しては記録に残して状況に応じた対応をとっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの声掛け・介助を行っている。終身前には義歯を預かり管理している。拒否のある方についてはうがいでの対応をしている		

グループホームへブンリートータス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握した上で一人一人に合わせたトイレの声掛け・誘導を行っている。スムーズなトイレ誘導が行えるよう、入居者に尊厳ある声掛けを職員は心掛けている	一人ひとりの排泄サインを職員は把握しており、本人の生活リズムにあった声かけや誘導による支援をしている。失禁時の対応については、羞恥心や不安を軽減するために、さりげない誘導により対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動、また10時のおやつ時に牛乳を提供したり栄養士の助言の基便秘予防の食材や調理法など取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、午後に入浴出来る体制をとっている。順番や一緒に入りたい人等を考慮し、トラブルなくゆっくりと入浴出来るようにしている	入浴は毎日14:00～16:00の時間帯で行われており、一人あたり、概ね着脱を含め20分程度を見ており、ゆったりと入浴できるよう支援している他、仲の良い入居者同士での入浴もある。また、同性介助や順番等にも配慮を重ねながら個々に沿った入浴が出来るよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調に合わせ、無理なく休んでいた		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の薬の説明書を個人記録のファイルに綴っておき、日々目を通す事により全職員が薬に関して把握している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	庭仕事・料理・裁縫など一人一人が生活の中で生き生きと能力が発揮出来る様支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日には散歩をしたりしている。普段行けないような所へは、年に1度旅行を企画している。その他誕生日外出という企画にて1対1の対応で1日好きな所で好きな事出来るよう支援している	入居者の思いに沿った外出の支援をしており、家族の協力による年に1回の一泊旅行や誕生会を利用した外出支援等を行っている。日々の外出も天候に応じて散歩に出掛けており、訪問時にもホームの庭園にて入居者同士が会話を楽しんでいる姿が見られた。	



グループホームへブンリートータス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設でお金は預かっているが、家族が了承している方はお小遣いとは別に本人が管理している 買い物や外食など状況に応じて自己にて支払いをして頂く事もある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方に関しては自由に家族と連絡をとって頂いている。家族位への要望がある場合には要件によっては本人が直接掛けている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせてホールや居室入口に飾りを置き心地良い空間を目で楽しんで頂いている ホールの天窗からは明るく気持ちの良い日差しが入るよう工夫している	共有空間の設備や調度品等には家庭的な配慮があり、季節感を感じることができる空間づくりがされている。ホーム内は木材が多用されており、入居者にとって安らぎの場となっている。空調設備等も適切に管理され、心地良く過ごせるよう配慮されていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニット毎に一つずつ掘りごたつがあり、テレビを見たり横になったりと寛いで頂いている。またソファでは新聞を読んだりして過ごされている方もいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自由に慣れ親しんだ物を持ってきて頂き、自分自身で居心地の良い空間を作っている	各居室には家具類や仏壇、家族の写真等が持ち込まれ、季節の花等を描いた絵の掲示や入り口には好みの暖簾等が掛けられており、各々が使い慣れた馴染みの物や気に入った物等を持ち込んでおり、入居者の個性を活かした居室づくりがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人自身が出来る事を焦らずに本人のペースでゆっくりと行えるよう支援している。分かる力・考える力を大切に、すぐには介助を行わない		